科目ナンバリング	U-LAS54 10015 OJ18						
授業科目名<英訳>	プロジェクトマネジメント Project Management			担当者所属職名・氏名	教育改革戦略本部 特定教授 藤田　哲雄		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	その他キャリア形成		使用言語	日本語	
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義＋演習（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

プロジェクトとは、あらゆる企業・組織の戦略実現のための手段として存在し、その成否が企業の存続を左右し、時には国レベルでの影響を与えることがある。こうしたプロジェクトの成功確率を上げるためには、プロジェクトを適切にマネジメントすることが欠かせない。

本講義では、プロジェクトマネジメントに必要なスキルと知識を体系的に学ぶことにより、社会に出てからはもちろんのこと、学生時代にも有効なスキルと知識体系を効率的に学ぶことができる。具体的には、

1. 論理的な計画立案力や問題解決力が身につく
計画と分析の土台となる論理的思考法(ロジカルシンキング)を習得し、プロジェクトの主要な構成要素を論理的かつ体系的に組み立てたり、リスク、課題、問題に対する判断を論理的に行う方法を学ぶ。

2. コミュニケーション力とリーダーシップが向上する
プロジェクトを成功に導く推進力となるリーダーシップや、メンバーの非言語的サインを読み取る洞察力、人を動機づけや適切なコミュニケーションなどの対人関係力など、総合的な人間力向上の重要性を理解し、グループワークで訓練する。

3. 世界標準の知識体系を学ぶ
世界標準のプロジェクトマネジメント知識体系(PMBOK)をベースに体系的な知識を習得する。そこでは単なる知識の暗記に留まらず、その知識を現実のプロジェクトで応用する力をグルーワークで育む。

4. 複雑かつ不確実な現代において成功の確率を高める
複雑性と不確実性が日々増している現代において、プロジェクトの進行中に発生しうる潜在的なリスクを予測し、早期に問題を発見して対処する能力を養う。これにより、致命的な失敗を回避し、プロジェクトを成功に導く確率を高める。

5. 将来のキャリア形成に役立つ
プロジェクトマネジメントのスキルは、業界や職種を問わず求められるため、インターンシップや就職活動において大きな強みとなる。将来的にマネージャーやリーダーの役割を担うことを目指す場合、学生時代からの経験は大きなアドバンテージとなる。

プロジェクトマネジメント(2)へ続く↓↓↓

プロジェクトマネジメント(2)

[到達目標]

・プロジェクトマネジメントの全体像を把握する。
・事例とグループワークを通じ、プロジェクトマネジメントに欠かせない重要なポイントと難しさを体感する。
・プロジェクト・マネージャーが備えるべきスキル・能力を理解する。

[授業計画と内容]

１．　イントロダクション
２．　プロジェクトマネジメント基礎力 : 論理的思考法(1)
３．　プロジェクトマネジメント基礎力 : 論理的思考法(2) / リーダーシップ・人間力
４．　情報システム開発の概要
５．　プロジェクトマネジメントの重要性
６．　PMBOK概要と知識エリア
７．　PMBOK知識エリア / 立ち上げ
８．　立ち上げ
９．　計画(1)
１０．計画(2)
１１．監視・コントロール
１２．終結
１３．アジャイルと現代のプロジェクトマネジメント
１４．まとめとグループ最終発表
１５．フィードバック

本授業では、プロジェクト・マネージャーとして経験豊富なゲスト講師を企業（ＡＮＡシステムズ）から招聘し、情報システムの構築を題材に、プロジェクトマネジメントの面白さや難しさを講義で学ぶとともに、演習やグループワークなど主体的に学び新たな知識を生み出すことに取り組む。

具体的には、演習（グループワーク）では与えられた問題についてグループに分かれて議論し、その解決策をグループごとに発表し、講師より講評を受ける形式を基本形とする。講義で学習した知識を実践的に応用することで理解を深めることが期待されるほか、属性が異なる学生との議論を通じて、思考の幅を広げるとともに多様な意見を取り纏める訓練を図る。

ゲスト講師は、主要講義部分の回については情報量が多く受講生の反応を見ながら実施する必要があるため、主に対面で授業を実施する。演習部分の回は主にオンラインで指導・講評を行う。担当教員は、主要講義部分の回についてはゲスト講師の講義を補佐し、演習部分の回は、受講生の進捗、質問、課題を拾い上げてリモート側と連携し、整合をとるとともに、指導、講評を補佐する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の小課題の提出状況（20%）、グループワーク（40%）、最終レポート（40%）

[教科書]

使用しない

プロジェクトマネジメント(3)へ続く↓↓↓

プロジェクトマネジメント(3)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する小課題に取り組み、またレポート課題を提出すること。

[その他（オフィスアワー等）]

オフィスアワーは特に設定しない。質疑はメールにて随時受け付ける。
藤田　哲雄: fujita.tetsuo.3m@kyoto-u.ac.jp

[主要授業科目（学部・学科名）]